

㊦ B—29 運針作業の動作分析

その2 長針と短針による比較

奈良女子大 ○水野 洋子
 稲田 しげ
 北村 君
 花岡 利昌

1. 従来、運針技能の習熟には多くの時間と労力がかけていたが、現今の被服教育では諸般の事情から運針にのみ力を入れることは許されなくなってきている。そこで運針技能の能率的習練方法に示唆を与えたいと考え、前報においては熟練者について比較したが今回は長針と短針による運針動作の分析を行なった。

2. 被検者としては、ある程度の運針習練をした人と、戦後の教育を受けた一般女子学生とを選び、長針と短針による運針動作を8mmカメラにおさめて、フィルム分析をし、両者の比較を試みた。

3. 第1報で、運針の熟達者は運針動作1単位当たりの所要時間が短く、かつ、偏差が少ないという結果を得たが、今回の分析結果では、いずれの被検者も長針による運針習練はしていないにもかかわらず、短針による運針よりも、長針によるものの方が、1単位当たりの所要時間が短く、且、偏差が少なくなっている。また手先の動作を分析してみると、長針の場合は動きは大きいですが、比較的楽に動作ができる。また短針では右手先の動きは少ないが前腕の運動が加わり、左手も大きく動いている。さらに被検者の縫った作品のできばえからも検討を加える。